

たかつき史見聞録。

神武天皇と高槻

高槻の地名の由来については諸説ありますが、今回は、神武天皇の東征に関係するという興味深い説をご紹介します。

高槻市は摂津国島上郡の町や村が順次合併し、昭和18(1943)年に高槻市となりました。その合併前の村の1つが高槻村です。

この高槻村の沿革が記された高槻村誌という文献があります。そこに高槻の地名について、「神武天皇の功臣、道臣命(みちのおみのみこと)が神武天皇東征の功績により、三島の地を賜った。道臣命は東征の際に月の形を書いた旗を高く掲げて戦っていたことから、賜った地域を『高月』と呼ぶようになった」という話が記されています。

なお、神武天皇は本拠地であった

南九州から大和に遠征し、橿原において初代天皇に即位されます。高槻村誌に記されている「東征」とはこの遠征のことをいいます。

この高槻村誌の話は日本書紀や古事記にも記載がなく、今のところ根拠は不明です。ただ、この「高月」の話、全く根拠がないわけではありません。

日本書紀と古事記によると、神武天皇の正妃、つまり初代皇后は、姫踏鞴五十鈴姫命(ひめたたらいすずひめのみこと)というお方です。

実は、同姫命の母方の祖父は三島溝杭命(みしまみぞくのみこと)という三島の氏族です。高槻との市境に近い茨木市五十鈴町には同姫命と三島溝杭命をまつる溝咋(みぞくい)神社があります。

高槻史は面白い。このコーナーでは、著名な史実だけでなく、史料には登場しない高槻の各地域の伝承などを元に、私の個人的な見解を絡めて、高槻の歴史の面白さをご紹介します。できればと思います。



語り手 濱田剛史

神武天皇が即位後に正妃として同姫命を迎えたのは、三島が地政上重要な地域で、同姫命の出身氏族(三島の氏族)を大切にする必要があったからだと思われます。

神武天皇の東征では、今の東大阪市日下付近で最初の戦いが長髄彦(ながすねひこ)との間で行われます。日下は三島から淀川を挟んですぐのところですし、三島には安満と東奈良(茨木市)という重要拠点もあります。東征の事実があったとすれば、当然、神武天皇も三島を味方にしてははずです。

この他にも、神武天皇と三島の関係を示す伝承があります。

これらさまざまな伝承が高槻の地名の由来として語り継がれ、高槻村誌に残ったのかもしれない。



PRESENT

今月の読者プレゼント (たかつき土産)

はにたんどら焼き (5個入り)

抽選10人

北海道産小豆をじっくり炊き上げ、ふんわり仕上げた生地で挟みました。はにたんの焼き印入り。



SHOP
DATA

菓匠花菓蔵 アクトアモーレ店
芥川町1-2-B102
Tel.681-2282

※当選者には引換券を発送(商品は発送しません)。引換券をお店に持参し、プレゼントと交換してください

応募方法

11/15(日)までにHP([ID 006046](#))でアンケートに回答

問合せ 広報戦略室 / Tel.674-7306

※当選者の発表は引換券の発送をもってかえます

※アンケートのご意見などは広報誌、市ホームページなどで、個人情報を除き公表する場合あり

情報 BOX

ワイドたかつき

毎日9:00、12:00、22:00から30分間放送
放送後、動画を公開 ([ID 020632](#))

11/1(日)~9(月)

クローズアップNOW

いつもの町の新しい好きを
見つけようオープンたかつき

11/10(火)~19(木)

クローズアップNOW

あなたにもできる
子どもの見守り活動

11/20(金)~30(月)

クローズアップNOW

しるあ歴史館特別展 幕末
時代の波瀾(はとう)と高槻

みんなで“もてきん体操”
集いの場
さわやか体操クラブ

まちと人とコミュニティ
津之江・東五百住自治協議会

たかつきの給食de
おうちはん
世界の食材で作る
令和の人気メニュー

ケーブルテレビ
J:COM 11ch

市広報番組

編集後記

「おいしい」や「楽しい」の先に「地球にやさしい」もある。日々の消費活動の中でできる、気負わず続けられる環境への取り組みを紹介しました(平田)

アンガーマネジメント特集では、身近なシーンで「怒り」について考えてもらいました。日々の怒りと上手に付き合うきっかけになればうれしいです(野倉)

すこやかエイジングでは冬のフレイル予防を紹介。10種の食品群とタンパク質量がポイント。意識的に食べて、今年の冬も元気に乗り切りましょう(辻本)

NEXT ISSUE (令和8年12月号) お楽しみに!

特集 見守り付き校庭開放 など

詰将棋(28ページ)の答え

【解説】▲5六角 △同飛 ▲3四角

【解説】初手▲3四角は、以下△同飛▲1四角△1二玉にて詰みません。2手目△同飛のところで4五に合駒は、▲同角で無駄合いです。また、2手目△同飛のところで3四に合駒は、どちらの角で取っても駒余りになります。

※▲は自分の駒、△は相手の駒。解説は市ホームページ [ID 187213](#) に掲載しています

問 将棋のまち推進課
Tel.674-7399